

『2025年度 春学期 学生による授業評価報告書』刊行にあたって

学長 神達 知純

2025年度春学期末に実施した学生による授業評価アンケートの集計結果がまとまりましたので、ここに報告書として刊行いたします。このたびの調査にご協力をいただいた学生の皆さん、授業担当教員の皆さん、担当の事務局職員の皆さんに感謝申し上げます。

本報告書は、学生の視点から授業を多角的に捉え、大学教育の質をさらに高めるための貴重な資料です。本報告書を活用することで、授業担当教員はふりかえりの機会をもつこととなり、学生の意見を参考にして、授業の改善や学修環境の充実に努めることとなるでしょう。

また、このような取り組みを定期的におこない、その結果を公表することは、大学の内部質保証として不可欠です。いま、大学の教学運営にいかに学生の声を活かしていくかということが重要なテーマになっており、認証評価機関のひとつである大学基準協会は、大学の内部質保証、教育課程の点検・評価・改善に学生の参画を求めています。教育の質の向上は、まさに教員・職員・学生が一体となって取り組むべき課題です。その意味でも本報告書には重要な指針が示されています。

さて、株式会社ディーシーアイ作成の「学生による授業評価アンケート結果分析報告」にもとづいて、今後の本学における授業改善の方向性について述べます。

今回の調査結果からは、全体的には教員による授業改善への努力が着実に進んでいることが確認されました。授業設計や教材提示、学修支援など、各学科でさまざまな工夫が積み重ねられています。こうした実践を学内で共有し、他学科の事例に学ぶことで、大学全体の教育はさらに充実していくはずです。

一方で、相対的に評価が低くとどまった項目として、Q8「質問・調査の努力」、Q9「目標達成」、Q11「興味・関心の向上」が挙げられます。これらはいずれも学生の主体的学修を促すうえで重要な指標です。学生の学修意欲を喚起し、能動的に学ぶ姿勢を育てるために、授業の展開や課題設定に一層の工夫が求められます。

また、Q4「事前・事後学修の指示」Q14「平均学修時間」については、前年よりも後退が目立つ傾向が見られました。ただ、これは本学に限らず、全国的な傾向であるようです。アクティブラーニングを推進するなど、各大学で授業改善が進められているものの、それが学修意欲の向上に直結していない現実があるといえます。いずれにせよ、学生一人ひとりが自らの学びをデザインできるよう支援することが、高等教育における今後の課題ではないでしょうか。

本学では「10の力」を全学の教育目標に掲げ、自律的学修者の育成をめざしています。授業評価の分析と改善のプロセスは、その実現に向けた重要なステップです。教員・職員・学生が協働して学びの質を高め、大正大学の教育を次の段階へと発展していくよう、引き続き皆さんのご理解とご協力をお願ひいたします。